様式第３号

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名
（付属機関等名）</td><td colspan="3">第２回　中央北産業遺産あり方検討委員会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事　務　局
（担当課）</td><td colspan="3">中央北整備部　中央北推進室　地区整備課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 日 時</td><td colspan="3">平成２４年７月２日（月）　１４時００分～１６時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 場 所</td><td colspan="3">川西市役所　４階　庁議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出
席
者</td><td>委　　員
（敬称略）</td><td colspan="3">山﨑、今西、澁野、水島、中野、金田、畠中、坂本、杉岡、酒本、枡川、松下、岡﨑</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事 務 局</td><td colspan="3">林谷</td></tr>
<tr><td colspan="3">馬場、山本、西村（㈱地域計画建築研究所）</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td>可・不可・一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>３人</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 次 第</td><td colspan="3">１．開会
２．前回の振り返り
３．火打前処理場の活用の方向性のパターンについて
４．意見交換</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 結 果</td><td colspan="3">別紙の通り</td></tr>
</table>

◎ 第 2 回中央北産業遺産あり方検討委員会 要旨録

○活用のあり方（産業遺産のとらえ方）に関する意見

- 文化として残すということであれば何を文化とするのか整理が必要だろう。
- まちの記憶を何らかの形で残すことができないだろうか。
- 前処理場は水に関する戦いであった。それを公園、せせらぎという形で次の世代に引き継ぐことは重要である。
- 前処理場にのみ重きを置くことはどうかと思う。皮革産業の行程や成果品といったものであれば文化として理解はできる。
- 文化として残すことは、理解できるが、残し方が重要であると思う。口で重要であるというのは簡単であるが、モニュメントで本当に何かを伝えることはできるのだろうか。
- 建物については、早く取り壊せという地域の声がある。
- 中央北地区のこれまでの経緯からすると前処理場そのものを残すことはのぞましくないと感じる。
- 産業遺産の活用が中央北地区の特徴を醸し出すツールとなればと思っている。今回の活用ではめずらしいスポットとできればと思う。
- 皮革産業を生産の歴史もあわせて、歴史文化として伝えていくことは重要だろう。
- 市と地元の工場では前処理場の認識に温度差がある。市としては画期的な施設であったと感じているが、地元では転廃業の最後の残っているものと感じている。
- 市の内部ではこれまでも工場の足跡を残すことは議論としてあった。
- 部品の活用については解体のスケジュールとの整合はとれるのか。
  ⇒検討段階であるため可能である。

○活用の仕方の案

- まちなかの大きな公園というのは、貴重である。歴史的な経緯をデザインの手がかりとすることは大事であると思う。
- スクリューポンプや皮革工場で利用していた機械をせせらぎ遊歩道に転用してはどうか。
- 転用の仕方であるが、オブジェとして置いておくだけよりは、何らかの形で機能している方がいいだろう。
- 遊具としての安全性は確保した上で、煙突を活用した滑り台などについても検討できるのではないかと思う。
- 地下構造物を防災に活用するということは賛成である。
- オブジェなどは理解できるが、つぶす際のライトアップなども地元からするとあまり理解できないと思う。
- 公園については、何が決まっているのか。委員会での議論が反映できるのか。
  ⇒これから計画の提案の募集を行う予定であるため、この委員会での議論の反映は可能である。
- 皮革産業に関わる展示については、商工会館以外にはあるのだろうか。
  ⇒ない。
- 工場見学等のイベントについては、あまり反対という意見もないだろうから、みたいと思いませんかというスタンスで募集をかけてはどうかと思う。

- これからの時代を考えるとデータとして残すという方法もあるかもしれない。
- 皮革産業に関わる工場の部品はどこかにないのか。
  ⇒たつの市で営業をされている所にはある。

○まとめ

- 川西市の皮革産業が一時期の地域を支える産業として栄えていたことなど、前処理場のみではなく、なくなってしまった工場群や成果物も含めて文化として、後世に何らかの形で伝えていくことが重要である。
- そのための方法としては、公園等に機械の部品や皮革工場の部品などを残す形や解体までの間に前処理場を活用して、記録や記憶として市民に伝える方法などがあるだろう。
- 次回の委員会では、その可能性について、事務局より提案をさせていただき、議論をいただく。

次回は、8 月 29 日（水）午後 2 時からを予定している。